

伽藍中枢部周辺地域の 基本設計

南北の伽藍中軸線をより明確化して、史跡の範囲・広がりを見せるようにするとともに、より市民に親しまれ、活用される史跡とする整備目標を掲げました。対象範囲全域で、史跡内の回遊性向上、利便施設の適切な配置、防犯・防災対策や維持管理の軽減対策の検討を行ってまいります。

平成 21 年 2 月に策定した「史跡武蔵国分寺跡（僧寺地区）整備実施計画」に基づき、国史跡武蔵国分寺跡の第一期整備として示された事業計画のうち、伽藍中枢部周辺〔中門地区・南門地区・北方（推定中院）地区・塔地区〕を対象に、保存整備工事の基本事項を定めた指針です。

■ 対象範囲全域

- ① 史跡内の回遊性の向上
- ② 利便施設の適切な配置
- ③ 防犯防災対策の検討
- ④ 維持管理の軽減対策の検討

■ 北方・推定中院地区

令和 8～10 年度

伽藍中枢部の北側は、法隆寺所蔵『大菩薩藏經』の奥書にある「中院」跡に比定され、国分寺崖線下には大型掘立柱建物、須恵器大甕を据えた特殊な建物跡のほか、伽藍中枢部の北西部を遮蔽する築地堀・溝跡、伽藍地西辺区画溝などが発見されています。これらの遺構を整備するとともに、現在、史跡地へのメインアクセスが北側の JR 国分寺駅・西国分寺駅からである現状を踏まえて、史跡主要部へのエントランスとして史跡全体、および周辺の関連遺跡（武蔵国分尼寺・東山道武蔵路）の案内を行える空間といたします。

■ 伽藍中枢地区

伽藍中枢地区の大半部分は、平成 23～令和 2 年度に施工して整備を終了しました。中門東側の南東部、講堂北側の北西部の 2 箇所については、武蔵国分寺の中枢伽藍の範囲と規模を明示できるよう、整備を進めてまいります。

■ 塔地区

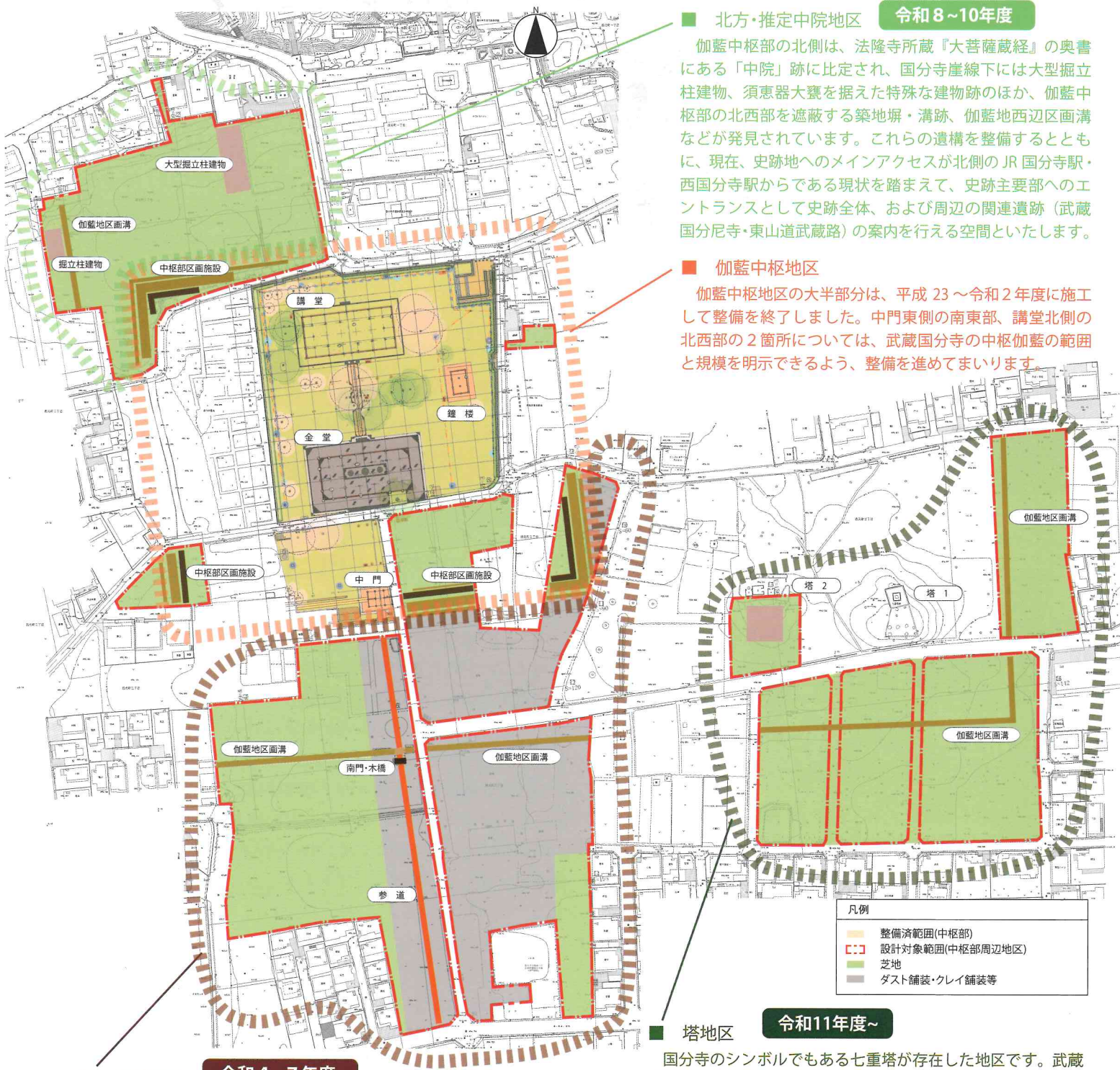
令和 11 年度～

国分寺のシンボルでもある七重塔が存在した地区です。武蔵国分寺では、二つの塔遺構が発見されており、礎石が現存する塔跡 1 の本格的な整備は将来整備を行う予定ですが、平成 15 年に新たに発見された塔跡 2 や伽藍地区画溝を表示することにより、伽藍地の南東隅にあたる当該地区に塔が存在したことを顕在化させます。また、塔の南側は苑院・花園院に比定されていることから、道路の一部廃道を検討するとともに適正な樹木間伐等の緑地整備を行い、歴史性を踏まえた活用（体験学習、市民交流活動等）が行えるよう整備を進めます。

■ 南門地区

令和 4～7 年度

武蔵国分寺の南側正面入口にあたり、基本設計の中心となる地区です。一部道路を廃道し、南門跡および参道跡を整備することにより、伽藍中枢地区に向けた視認性を確保するとともに、伽藍地南辺区画溝を表示して寺院（伽藍地）の南限を示します。さらに南方に離れた参道口方面（府中市栄町）への導線を誘導し、南門地区西側に隣接する市立第四中学校付近は修理院に比定されているため、その歴史性を踏まえた活用（体験学習・市民交流活動等）が行えるよう整備を進めます。



- 凡例
- 整備済範囲(中枢部)
 - 設計対象範囲(中枢部周辺地区)
 - 芝地
 - ダスト舗装・クレイ舗装等

南門・木橋



遺構説明板(中)
南門・木橋・区画溝



南門地区

実施設計

(令和4~7年度工事)

ルート案内板



四阿(小)



令和4年度南門地区
樹木修景工事予定

伽藍地区区画溝

南門・木橋

令和6年度
工事予定

令和5年度
工事予定

令和7年度
工事予定

参道

大型地形模型(+VR・AR)
(S≒1/300、3.0m×2.0m)



総合案内板 (W=1.5m)



名称標識



四阿(大)



※写真はイメージです。